

【秋田県大仙市】

校務 DX 計画

教職員の校務の効率化と負担の軽減を図り、教育の質の向上を目的として、県と市町村による統合型校務支援システムの共同調達・共同利用に参加し、令和6年4月より運用を開始している。

当該システムは、フルクラウド型・次世代校務支援システムであり、ゼロトラストネットワークによる強固なアクセス制御を行っており、従来と比較し高いセキュリティが担保されている。

統合型校務支援システムのメリットである情報の一元管理により、これまで複数の職員がそれぞれ入力していた児童生徒情報が横軸で連携することができ、通知表や健康管理、指導要録等の入力作業の軽減や、児童生徒の欠席連絡アプリにより、朝の連絡対応時間の削減、校務支援システムと連携した出席簿への転記や感染症システムへの自動連携が実現しており、校務の効率化が図られている。また、ダッシュボード機能により、児童生徒が入力した心の状況や出欠状況がグラフ化され、学校のみならず教育委員会においても、全学校、学校単位でその状況を即時確認出来るようになっており、状況把握がより容易に行えるようになった。

本市においては、校務支援システム導入以前よりチャットツールによる教職員間、教育委員会事務局との情報連携を行っており、連絡事項の即時性や、調査・アンケート等の回答集計にツールを利用することによる時間短縮やペーパーレス化、FAX 等を用いることなく行えており、双方の事務効率化が進んでいる。

今後の校務支援システムを主軸とした方向性は、新たな環境と従来の校務との過渡期にあり、操作方法の不慣れが顕在化しており、多様な機能を活用するため、教職員への共同利用運営協議会による研修会への参加や、市独自の研修実施、活用事例の共有を行っていく。

また、校務用端末と授業用端末を一体化し、ロケーションフリーによる校務処理が行えるよう令和7年度に教職員用端末の更新を実施する。

校務のデジタル基盤が整備される一方、一部でまだ押印が必要な書類もあり、引き続きペーパーレス化に向けた押印の廃止を推進していく。合わせて、システムに対応したセキュリティポリシーや個人情報保護等に関する規定等についても順次策定、改定を行っていく。